道徳科スタートに向けた道徳教育推進教師の機能

― 道徳教育推進委員会での協働を通して ―

学籍番号　１７９９５８
氏　　名　松本　　茜
主指導教員　家近　早苗教授

１．課題と目的

中学校では，平成 31 年度から新学習指導要領の実施にあたり，「特別の教科　道徳」が新設される。報告者の実習校には，道徳の授業実施に自信のない者や学校として指導している内容に偏りがあること，新学習指導要領にて新設される「特別の教科　道徳」を実施するにあたり評価をつけることへの戸惑いがあった。報告者は，実習校の実態をもとに「特別の教科　道徳」が本格実施されるという状況を踏まえて，校内の教員が協働して準備を進めることが有効ではないかと考えた。そこで本研究の目的を①円滑に「特別の教科　道徳」を始めること，②校内教員の協働を促進すること，③教員の負担感，不安，抵抗を軽減する方法を模索することを通し，道徳教育推進教師はどのような機能を求められるのかについて検討することとした

２．研究の方法

研究Ⅰ　道徳教育推進委員会が学校全体に対して行ったこと

【目的】報告者がどのように「特別の教科　道徳」開始に向けた情報を校内教員に提供できるかを検討する。また，道徳教育推進委員会を活用し，道徳教育推進教師の役割について検討する。

【方法】報告者が職員会議・領域部会・道徳教育推進委員会で用いた資料，記述記録，会議後の教員の反応・発言・質問等を記述し，整理，検討する。

【結果と考察】報告者は，情報共有の方法として職員会議と領域部会の活用を試みた。領域部会では，少人数で対話的に進めることができた回もあったが，教員の「道徳科」のとらえ方，コミットメントの低さ，会議時間の短さなどが原因で，スムーズに進められない回もあった。協働的に学校を運営するためには，会議の事前の準備が必要であること，推進者が，新たな取り組みの説明を明確に行うこと，さらに個の教員が関心をもって関わることの必要性があげられる。また，道徳に関する委員会は組織の立ち上げから開始し，道徳ノートの作成や評価のつけ方の検討を行った。その結果，道徳教育推進教師として，校長の協力を得ること，事前に委員会メンバーとの協綿密な打ち合わせが必要なこと，次年度を見据えて計画をすること，導入前の準備に対する提案やその必要性を説明などの機能を果たすことが求められる。このような機能を通して校内の組織に変化をもたらすことが可能になると考えられる。

研究Ⅱ　道徳の授業実践

【目的】子どもたちから人と違う意見，友人や登場人物に共感する意見などの多様な意見を引き出し，考え方を変化させることや，改めて確認させるための授業方法を実践し，効果的な授業方法を検討する。

【方法】報告者が授業実践で用いた指導案３回分と授業後の子どもの感想をもとに検討する。

【結果と考察】道徳の授業実践３事例を使って検討した。その結果，視覚的な支援を用いて子

どもたちが意見を出しやすくする工夫として「風に立つライオン」で用いたコの字型の座席配置・ホワイトボードの活用，「ドナーカード」で用いたカラーカードでの意思表示・生徒同士の指名方式，「Seasons Of Love」で用いた付箋での意見提示・班交流を活用した。いずれの方法も，子どもたちから人と違う意見を引き出し，互いに他者の意見に共感したり，認め合うことはできた。しかし，学習内容からそれないように授業を進める困難さや子どもの行動や様子を見取る難しさという課題も明らかになった。

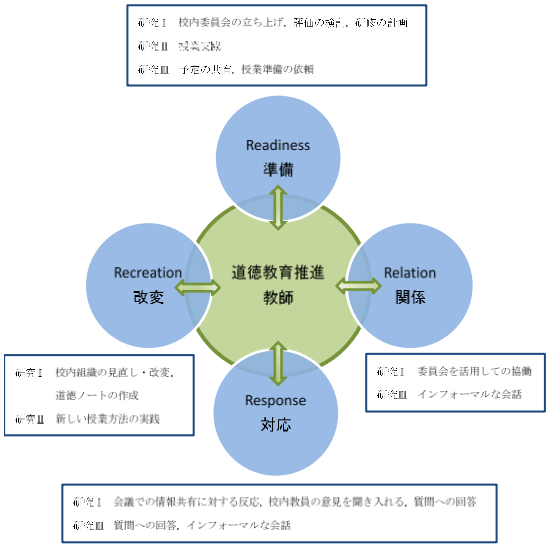
研究Ⅲ　教員の変容

【目的】道徳教育推進委員会の取り組みが，校内教員の道徳教育への意識にどの程度影響を与えたか検討する。また，報告者の担当学年教員の意識に変容が起こったかを検討する。

【方法】「道徳教育に関するアンケート」を２回実施する。アンケートは，44 項目の質問項目を設定し，４件法にて実施した。報告者の担当学年に対しては，アンケートに加えて，報告者が行った会議やインフォーマルな話し合いの記録を検討した。

【結果と考察】結果として，校内全体では道徳教育の知識，道徳の指導方法に大きな変化は見られなかった。しかし，報告者の担当学年教員は，報告者の行った予定の共有，事前準備の依頼，互いに関心を持つといった関係性を高める機能，相談に乗る，質問に答える，意欲を認める，共感するといった働きを通し，報告者と担当学年教員間の協働が良好に機能した。取り組みの担当者が協働の視点を持ってコミュニケーションを取ることが校内の協働を進めるカギとなるだろう。

３．総合考察

研究Ⅰでは道徳教育推進委員会が学校全体に行ったこと，研究Ⅱでは道徳の授業実践，研究Ⅲでは研究Ⅰと研究Ⅱが教員にどのような影響を及ぼしたのかを検討した。研究Ⅰからは，先を見据えた準備と既成概念にとらわれずに組織や方法を改変する必要性を見出した。さらに，協働から生まれる関係性と仕事の分担や依頼をして関係を結んでいく必要があるということも明らかになった。研究Ⅱでは，「考え，議論する道徳」に変えていく工夫と課題を明らかにすることができた。研究Ⅲでは，情報共有に対する質問への対応やインフォーマルな会話により関係が深まることで，教員の道徳教育に関する知識が向上することが明らかになった。

研究を統合した結果，道徳教育推進教師の４つの機能が見出された。１つめは準備(Readiness)，２つめは改変(Recreation)，３つめは対応(Response)，４つめは関係(Relation)である。道徳教育推進教師が，主体的に４つの機能(４R)を果たしながら，校内教員の４つの機能に働きかけることで，相互に作用しながら校内の道徳教育への戸惑いや苦手意識が軽減されていく可能性が示唆された。